

## 平成20年12月 経営協議会議事録

I. 日 時 平成20年12月17日（水） 15時00分～17時05分

II. 場 所 千葉大学けやき会館 レセプションホール

III. 出席者 齋藤学長，赤田，有馬，飯田，伊集院，黒木，桜田，西村，  
山本，北村，野波，安田，福島，堀，田村，菊池，河野各委員  
（欠席：井上，加賀見，竹山，茂木各委員）

IV. 前回経営協議会議事録について  
原案のとおり承認された。

議事に先立ち，学長から，新たに学外委員に就任した西村 英俊 氏の紹介があった。引き続き，平成20年秋の叙勲において，瑞宝大綬章を受章された有馬委員への祝辞があった。

V. 審議事項（○外部委員，◎学内委員）

1. 医学部入学定員増及び中期計画の変更について

学長から，医学部入学定員増及び平成21年度からの中期計画の変更について併せて審議願いたい旨提案があった後，北村理事から資料に基づき説明し，以下の質疑応答があり，審議の結果，了承された。

○必ずしも奨学金を受けないで当該増員枠により入学する場合はあるか。

◎入学段階で振り分けず，教育プログラムも特に区別してはいない。奨学金については，入学してから希望者を募り支援する。当該奨学金制度を利用しなくても，卒業後千葉県内の医療機関に従事する者はいる。

2. 平成20年度第2次補正予算（案）について

学長から，平成20年度第2次補正予算（案）について審議願いたい旨提案があった後，福島理事から資料に基づき説明し，以下の質疑応答があり，審議の結果，了承された。

○急激な円高による留学生の生活苦に対して何か支援策等を講じているか。

◎現在のところ留学生から特に相談等はきていないが，何か対策が必要かどうか検討している。

○予算の項目を変更する程度で経営協議会において審議する必要があるのか。

◎従来から一般会計については補正予算の編成として審議しているが，経営協議会において審議する必要性については今後検討したい。

V. 報告事項（○外部委員，◎学内委員）

1. 平成19年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

山本理事から、平成19年度に係る業務の実績に関する評価の結果について資料に基づき説明があり、以下の質疑応答があった。

- 「順調にすすんでいる」の評定結果はどう分析すべきか。
- ◎「特筆すべき進捗状況にある」との評価を得ている大学は、業務運営の改善・効率化において1割にも満たない大学のみであり、本学としては、すべての項目において「順調にすすんでいる」評価を得たことは決して悲観することではない。
- 国立大学法人評価委員会のメンバーはどのような構成になっているのか。
- ◎大学関係者の他、民間等の有識者などを含め20名程度の委員から構成され、氏名等は公表されている。
- 評価結果を受け、大学から地元メディアへは情報提供しているか。
- ◎特に情報提供していないが、今後検討する。
- 大学評価・学位授与機構から第一期中期目標期間に係る教育研究評価の結果はいつごろ出るのか。また、評価結果を次期中期目標期間における運営費交付金の配分に反映させる基準等は示されているのか。
- ◎第一期中期目標期間に係る教育研究評価の結果は、2月中旬くらいに示される予定である。評価結果を運営費交付金の配分に反映させることについては、文部科学省から「見直しの方向性」の説明はあったが、具体的な基準等はまだ示されていない。

## 2. 政府の第一次補正予算に盛り込まれた事項について

福島理事から、政府の第一次補正予算に盛り込まれた事項について資料に基づき説明があった。

## 3. 第二期中期目標・中期計画（教育研究等）（第一次案）について

山本理事から、第二期中期目標・中期計画（教育研究等）（第一次案）について資料に基づき説明があり、以下の意見等があった。

- 項目数を大幅に減らしたことは非常に評価できる。
- 千葉大学を一言で表現できる言葉があるとアピールする際に非常にインパクトがある。
- 国際化の方策として、“留学生”という言葉をも“国際学生”に言い換えると、日本人学生で海外に留学する学生も包括できる。また、外国人教員と女性教員の確保では、別々に強調した方がより効果的である。タイムズ紙の大学ランキングも視野に入れて、国際化の推進に取り組んでもらいたい。
- 学習内容の十分な理解を図るため、講義時間外に学生がなすべき課題を明示することに関しては、画期的な取り組みである。
- グローバルゼーションとは、境がなくなり共通の価値観で評価できる状態をいい、大学としてはその場を提供することが重要である。
- 国際化の一つの重要な観点として、異文化に触れて理解を深めることも重要であるため、学生の視野が広がる場を授業や学生生活の中に積極的に提供し

てほしい。

- 地域社会との連携においては、地方公共団体以外に、最近はNPO法人等各種団体と連携協力する機会も多くなり課題も抱えているので、対象機関として考慮願いたい。また、活動内容が環境・医療・町づくりなどに限定されているのはどうか。
- 産学連携では、双方のニーズとシーズを個別にマッチングさせる産学官連携コーディネーターなどの役割が重要となる。

#### 4. その他

- (1) 教育・研究プロジェクト採択一覧（平成17～20年度）について  
北村理事から、教育・研究プロジェクト採択一覧（平成17～20年度）について資料に基づき説明があった。
- (2) テニユア・トラック制について  
山本理事から、テニユア・トラック制について資料に基づき説明があった。
- (3) サバティカル研修制度について  
安田理事から、サバティカル研修制度について資料に基づき説明があった。
- (4) 千葉大学とJSPS北京研究連絡センターとの共同シンポジウムについて  
野波理事から、12月6日（土）に開催された千葉大学とJSPS北京研究連絡センターとの共同シンポジウムについて資料に基づき報告があった。
- (5) 平成19年度決算検査報告における不当事項の指摘について  
福島理事から、平成19年度決算検査報告における不当事項の指摘について資料に基づき説明があった。

最後に、総務課長から、次回以降の経営協議会は、3月に予定し具体的な開催日時は後日調整したいとの説明があった。

以上